

きょうされん福島支部 TOMOだより

2012. 3. 11発行 第7号
きょうされん福島支部事務局
(共働作業所ピーターパン内)
〒969-6262
福島県大沼郡会津美里町外川原甲4260-7
TEL0242-55-0053 FAX0242-55-0054

前を向いて
一歩一歩

福島支部
会員事業所さんの
活動報告

デイさぽーとぴーなつつさん

2011.3.11 あの日から1年…

南相馬市内にあるぴーなつつさんは、震災後きょうされんの会員になってくれました。

原発事故による大変な混乱の中も、障がいを持つなかまのためにスタッフさんも休みなく活動を続けています。

今回、ぴーなつつの活動をずっと支え続けてきたスタッフの石田さんに、この1年の思いやきょうされんの会員さんや賛助会員さんに伝えたいことを書いて欲しいとお願いしました。石田さんのおもいがいっぱいあった手記です。(中面をご覧ください)



慰労をかねた交流会は深夜までつづくことも!? 支援員と石田さん↑

現在も、南相馬市内のスタッフ不足事業所への支援として、全国からJDF支援員が1週間交替で来ています。ぴーなつつは、支援員の宿泊場所として夜間も場所を提供しています。毎週末には、帰ってゆく支援員への感謝の気持ちを込めてと、南相馬の状況をお話するために、支援員さんとの交流会を、昨年5月から欠かすことなく続けています。理事長の青田さんをはじめぴーなつつ・ピーンズのスタッフさんが毎回参加を続けているのです。そんな、丁寧な取り組みを続けるスタッフさんのおかげで、全国のなかまと福島との強いつながりが生まれています。

浜南ブロック いわき駅前街頭署名募金活動報告



2月11日(土)寒風吹き荒ぶいわき駅前で、街頭署名募金活動を行ないました。当初は、昨年12月のがんばるDAY期間に予定していましたが、悪天候のため延期となっていました。今回実施できてよかったです！
会員事業所スペースけやき あとりえ北山 アライブ 自由空間から、25名が参加。署名数は147筆 募金は4,015円集めることができました。

みなさま
お疲れ様でした！



～参加したみなさんの感想～

- なかまの積極的な取組みがよかった。
- 車椅子のなかまを参加させたいと思った。
- 高校生など若者が、想像以上に協力的で嬉しかった。
- 全員大きな声で呼びかけることができた。
- 駅前だったので、乗降時間は人がいっぱいいて呼びかけやすかったが、電車が来ないと人がいなくてよびかけにくかった…
- なかまが署名を呼びかけている姿がとても輝いていた。また次回も参加したいという声が上がった。

○好天だが、風が強く寒かった。しかし、なかまやスタッフの思いをひとつにして呼びかけたことにより、声と共に熱意が届けられたと思う。未来を担う若者たちにパワーをもらい、地域を支えてくれている様々な人たちと共に、みんなでいわきを盛り上げ、地域のつながりを強くしていこうと思う。

などなど、多くの感想が寄せられました。いわきの皆様お疲れさまでした。

第35次国会請願署名 福島支部目標達成！

福島選出14名の国会議員さんひとりひとりに1,000筆の署名を届けよう！
を目標に取組んだ結果…3/11現在で 14,511筆の署名が集まりました。

支部会員事業所さんのほとんどが取り組みをしました。2月中頃までは、7,000筆ほどしか集約できておらず、このままでは、福島の声が少なすぎると不安になりましたが、多くの方が一生懸命取り組んでくれました。みなさんが集めてくれた署名は、3月3日～9日に各ブロックで地元の議員事務所を訪問し、国会へ請願するための紹介議員になっていただけるようお願いしてきました。

皆様からいただいた署名を、声を 議員の皆様へ届けてきました。

福島選出国会議員さん地元事務所訪問報告

請願署名活動は、毎年5月におこなっていましたが、TOMO本紙の制度改革推進会議の記載にあるように、厚生労働省から出された新法(案)は、みんなで決めた提言が反映されている部分が少なく、早急に国会議員さんに話をきいてもらい、是非、新法にみんなの声を反映させてほしいことをお話してきました。

14名の国会議員さんのうち12名の方の事務所を訪問することができました。お忙しい中、7名の議員の方が直接お話をきいてくださいました。紹介議員ご承諾をいただいているのは、現在5名。確認して返答するという方が多かったです。

3月3日に訪問した金子恵美議員は、ご自身が障がい者政策PTということもあり状況に詳しく、現状では、厚労省からの新法案のままで成立するであろうと率直にお話してくださいました。ただ、議員ご自身も何とかしたいという思いをとて強くお持ちで、紹介議員になることを承諾していただいたうえ、当事者の声をもっとあげて、一緒にがんばろうと励ましの言葉をいただきました。

～お知らせ～

3月31日仙台開催 東日本大震災から1年

～被災地の障がい者の働く場 スペシャルパワーアップフォーラム～

主催：公益法人ヤマト福祉財団 協力：きょうされん

被災3県の障がい者の働く場で新たに始まった取り組み、ネットワークや企業とのコラボについての報告フォーラムです。ヤマト財団のご好意で、南相馬発着便と、いわきを出発したらサービスエリアから乗降できるシャトルバスの2便を用意していただきました。参加希望の方は、きょうされん福島支部事務局までご連絡を！

福島からは、
南相馬ファクトリーの活動と
にんじん舎と福相食品さんのコラボにつ
いての発表があります。

★ 2012 福島支部総会 ★

開催日決定！！

開催日：2012. 4. 21 (土)

会 場：郡山市内

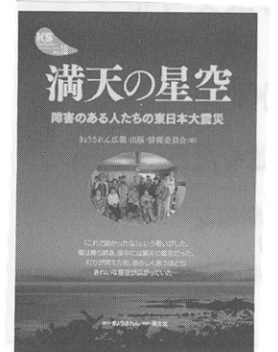
詳細は、決まり次第ご連絡いたします。
当日はきょうされん常務藤井克徳さんが
来てくださいます。
皆様、予定に入れておいてください！！

●書籍のご案内●

「満天の星空」-障害のある人たちの東日本大震災-

岩手・宮城・福島3県のきょうされん会員が「あの日・そしてそれから」を手記でつづる。南相馬さぽーとセンターぴあ理事長青田さん、楢葉から避難した希望の杜福祉会古市さんの手記が掲載されています。支部で取扱いをしていますので、ご購入希望の方は下記までご連絡下さい

～連絡先～
みどり工房(担当：萩野)
TEL024-942-0601



■A5判. 80項(予定)
■定価：700円
■発行：きょうされん

震災後の原発事故により、南相馬市の住民が新潟に避難することになった最後の便を見送った後、無人化した鹿島の街を通って、自分も北へ避難するつもりでした。鹿島橋を通って街へ入った時、家に入ろうとする腰を曲げたお年寄りが目に入りました。「お年寄りを置いて、自分だけ逃げていいのか」自問しました。自分には、一緒に避難する両親や妻子もいず、このまま残って最後に出て行こうと決心しました。

3月末、消防団で活動している時、ぴーなっつから再開に向けて活動するのに来てくれと連絡があり、行ってみると、神奈川きょうされんの方がドラム缶や携缶でガソリンを持ってきてくれていました。当時は、首都圏でもガソリン不足で、南相馬ではガソリンスタンドも並ばないと買えない時期で本当にありがたかったです。それからきょうされんから物資や人的ボランティアなど支援を現在まで継続して受けています。

4月22日にぴーなっつは支援のおかげで再開できました。その後、ぴーなっつは、きょうされんが参加しているJDF（全国的な障がい者の団体）が行なった「南相馬市の障がいを持った方の避難の状況の調査」の拠点となりました。

私が避難を思いとどまった老人の方のように、体が不自由で避難できない方、避難できたとしても避難所ではとても生活できないから避難しないという方などが、調査で出てきました。

その時、3月下旬に埴町に、ある家族の避難をさせるため、市役所の福祉課に相談しに行ったとき、避難所で身体が弱い方を避難させたいがどうしよ

うもできないと職員の方々が真剣に悩んでいたのを思い出しました。実際、ぴーなっつで再開前に避難所に避難している身障の方の入浴支援をしており、本来保護されなければならない方々が残ってしまった現実を感じていました。

震災後、お店屋さんなども開いておらず、開いても長蛇の列でした。ライフラインが分断された状況で、障がいをもっている方の苦労は計りしれないものだったと思います。障がいをもっていない方でも当時、小麦粉を手に入れるにやっとな、手に入れた久しぶりの天麩羅を食べた時は、涙が出て止まらなかったというものでした。仙台ではガス配給がままならず、コンロや風呂が使えないところが多数あったようです。

南相馬市では、残っていても困難な生活、避難しても困難な生活ということで、住民は大きな決断をしなければなりません。どの選択をしても心の安住はありません。南相馬の住民はこれから過去と対話をしながら未来にむかっていかなければなりません。

私たち南相馬の住民は、悲しみや悔しさを背負いつつも、前を向いて進んで行かなくてはならなかったのです。そして、私たちも、障がいをもった仲間のための居場所を再開することとしました。

南相馬市の利用者の大半が避難していましたが、ぴーなっつは当初、避難できず自宅にいる方もしくは北の相馬市・新地町の方が利用していました。職員も大半が避難しており、人数を制限して、時間を短縮にしての再開となりました。大変な時期だったので、利用者の方に安心してもらえるように楽し

い雰囲気を出そうと努力しました。そんな時、JDFから派遣された支援員の方が、みんなを励ますための催し物を開いてくれました。手品や一発芸、歌など披露してくれました。それが今日まで定例となり、毎回お楽しみ会として、さぼーとセンターぴあの3事業所、ぴーなっつ・えんどう豆・ビーンズのみんなが集まる場となりました。みんな毎回来しみにしています。



ゴールデンウィークを過ぎると、ぼちぼちですが、店屋さんも開いてきて、ガソリンも通常に手に入るようになりました。JDFの方は、南相馬の「あじくら」という中華屋さんが好みでよく行くようになったのもこのころからです。後に、ぴーなっつの近

くの「円満」というラーメン屋が再開するとそこも行くようになりました。しかし、どのお店も閉まるのが早く、今現在（H24.2.29）以前の営業時間に戻っている店は2割もない状態です。

夏になるころには、かなりの方が戻ってきました。サービス提供の面で、入浴サービスが調整となり、震災以前は希望通り入浴できていたのに、半分ぐらいの入浴となりました。

現在も調整が続いており、本当に利用者の方には申し訳ないと感じています。また、活動面では、以前は散歩や野外活動があったのですが、原発事故の為にできなくなりました。草むしりが好きな利用者は、長靴とごみ袋でアピールするのですが、聞き届けてもらうのに謝るしかありませんでした。一度ドライブに行ったのですが、美しい向日葵畑の中、車を止めて、外に利用者さんを出すため、放射線測定をするにあまりの高さに、いそいでドアを閉め車を走らせました。

そのような状況なので、当地で行われる相馬野馬追いは、縮小した形になり、30キロ圏で行えず、地元住民としては悔しい思いをしました。毎年利用者の方も楽しみにしていたのに残念です。送迎で、野馬追いの祭事場の「雲雀ヶ原」を通るたびに荒れた様子をみるにしのびなかつたです。広大な敷地を除染して今年は開催するとの話ですが、まだ行っていないません。

秋になり、職員から、暗い気分を一掃しようというので、お昼ご飯の前に、みんなで歌を歌うようにしました。坂本九さんの「上を向いて歩こう」を復興に向けて元気に歌っています。外に出られない

分、体操を以前より、大目に取り入れました。みんな積極的に取り組んでいます。JDFの方へのお土産に福島の方が考案した「やきとりじいさん体操」のDVDを差し上げているのですが、ぴーなつつでは見た目よりハードな体操なのでやっておらず、全国的普及はJDF支援員の皆様に託されています。今年も、南相馬では作付けができず、米を作るのができません。うちでは柚子ができるのですが、放射能の為、収穫しませんでした。支援等お世話になった方へ本当は送りたいのですができません。支援ばかり受けて何も返すことができない自分に嫌な気分になるときがありますが、いつか返すときまでと思い、今は利用者の方へと気持ちを切り替えするほかありません。

まだ何も見通しが立っていませんが、広島・長崎そして戦後の日本を再生した先人の方たちが出来たことを少しでも近づけるよう努力していくしかありません。震災後直ぐに、消防活動で沿岸部を捜索している時、戦後の焼け野原を思わせる光景を見ました。原発事故で、無人化した街も見ました。

心が折れそうな時、万葉集の歌を見ました。「かにかくに 人はとやかく 言うけれど 我は織らなむ 真白の布を」という歌です。「いろいろとかく人は言うけれど、自分が出来ることをただひたすらするだけ、心を正直に持つて」という歌です。

震災から一年、自立して自分たちでやっていかなければと思いつつ、支援に頼る日々が続いています。震災や原発事故の経験を風化させず、昇華して、いつか支援なされた方々に恩返しができるよう微力ですが頑張っていきます。

障がいを持った方が、生き生きと生活できる南相馬、復興へ向けて活動をしていきたと思っています。今後どうか、ご協力お願い致します。全国から温かい支援をいただきました。ありがとうございます。また、中通り、会津地方の方にはいろいろ受け入れていただき言葉もありません。大変な状況ですが、乗り越えていき、皆様へ恩がえしできるよう邁進していきます。



特定非営利活動法人さぼーとセンターぴあ

デイさぼーと ピーなつつ

主任 石田宏之